

道徳科学習指導案

日 時 平成30年6月1日（金）
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
1年B組35名
会 場 1A3A教室
授業者 佐々木 聡也

- 1 (小単元的) ユニット名 「誇りをもって生きる」(全3時間)
題材名 「親友救済作戦！」 【B(8)友情, 信頼】(本時3/3時間目)

2 ユニットについて

(1) 生徒観

本校生徒は、「生活トレーニング」という形で、全校でよりよい生活の在り方を追求し、生徒が自律的に生活の質を高めるという活動を行っている。中学校生活が始まり2ヶ月が経とうとしている1年生も、「生活トレーニング」を意識し、気持ちの良いあいさつをする、時間を守る、使った場所をきれいにするなど的基本的生活習慣を大切にしようとしている生徒が多い。一方で、学校の生活上のルールは理解しているものの、時として誰にも見られていないと勝手気ままに振る舞ったり、場面によって判断基準を緩めたりすることがある。社会によりよく生きようと探究する人間の育成を目指し、どのような場面でも正しい判断に基づいた行動をしようとすることや、自分の言動に責任をもつこと、自分を律することができる態度を育成することが必要であると感じている。

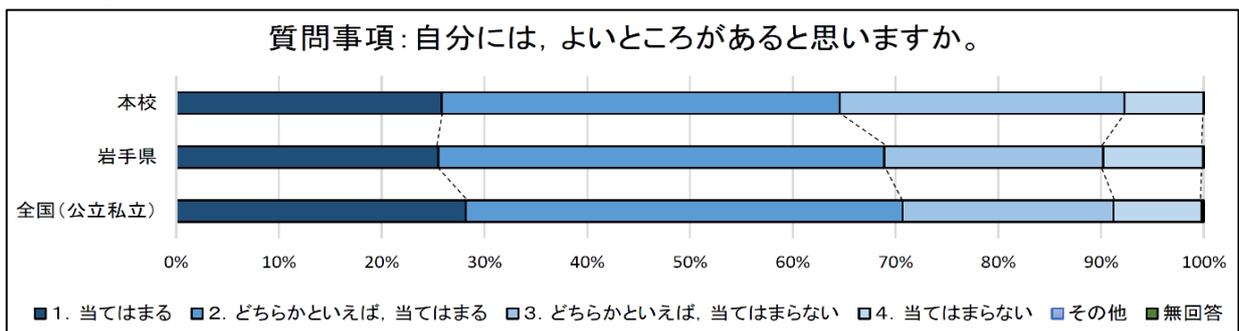
道徳の授業では、自己の考えを持ち、発表することに抵抗感が少ない生徒が多く、言いにくいような内容でも正直に話すことができる生徒が多い。また討論の場面においても、多数派に迎合したり、自己の考えを安易に曲げたりすることなく、しっかりと自分の考えとその根拠をもって発言することができる生徒が多い。一方で「自分は自分、人は人」というように、自他の違いを割り切って考える生徒も見られる。研究主題にある「社会によりよく生きる」とは、社会の中で他者と共によりよい人生を築いていくことである。自他の違いを尊重しながらも、相手の気持ちに寄り添ったり、他者を理解しようと努力したりする生徒の育成に努めたい。

また、ユニットの学習前に行った『「誇りをもって生きる」とはどのような生き方か』という質問に対しては、「自分の長所を理解して生きること」、「他者よりも優れている部分があると自信をもつこと」など、自他の優劣に関する記述が多く見られた。ユニットの学習を通して「誇りをもって生きる」とは、自分“だけが”ではなく、他者“も共に”であることに気づかせたい。

(2) 教材観

2014年に内閣府が実施した、日本を含めた7か国（ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ、スウェーデン、韓国）満13～29歳の若者7431名を対象とした意識調査が「子ども・若者白書」で発表された。今の日本の若者が自分自身をどう捉えているかについて、自己肯定感、意欲、心の状態、社会規範、社会参加、将来像などといった観点から見た調査である。「自己肯定感」の観点では、「自分自身に満足しているか」の質問に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した者は、日本以外の6か国は70～80%だったのに対して、日本は45.8%強で最も低い結果であった。

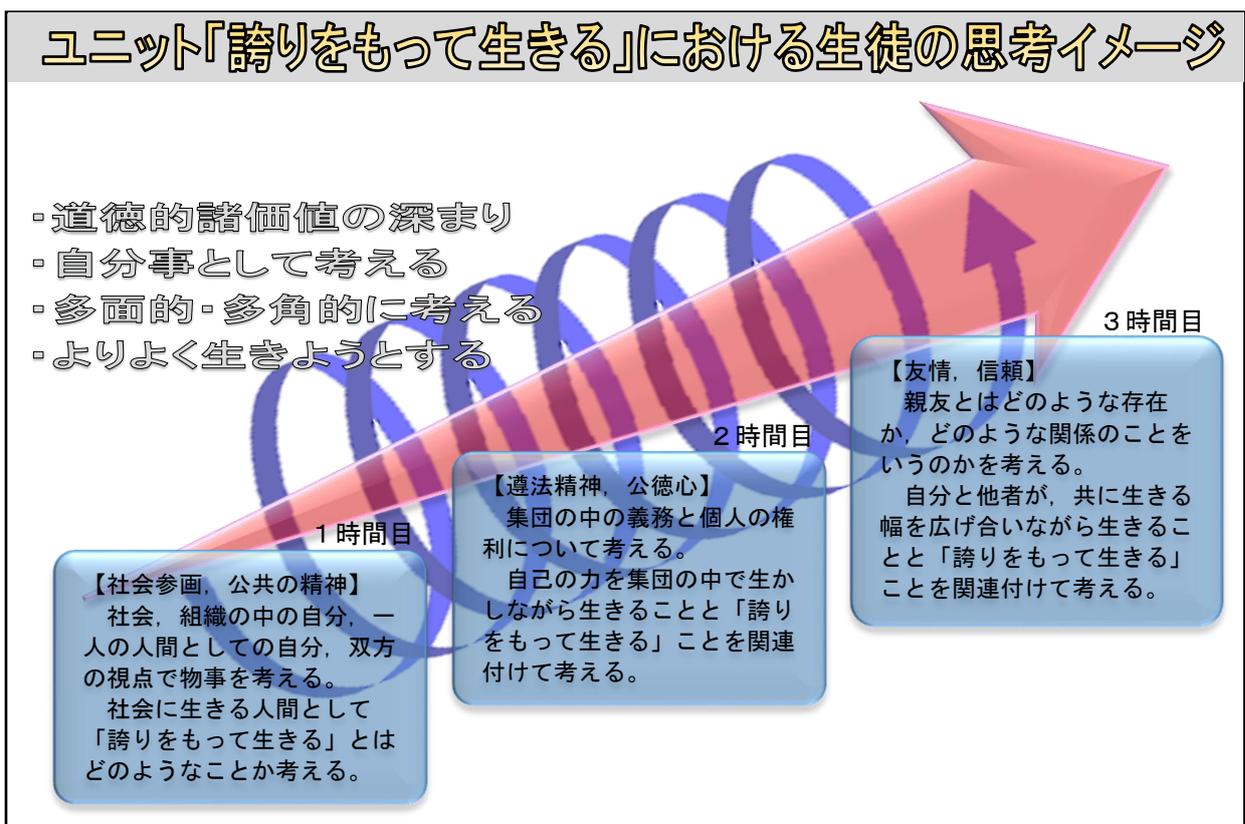
本県、そして本校の実態について平成29年度全国学力・学習状況調査のデータを見ると、「自己肯定感」の観点、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した者は、全国（公立私立）70.7%、岩手県68.9%、本校64.5%となっている。全国に比べると、本県が-1.8ポイント、本校は-6.2ポイントと、全国的に見ても本校生徒の自己肯定感の低さが覗える。



【図1】平成29年度全国学力・学習状況調査データ「自分には、よいところがあると思いますか」

自己肯定感の低さの問題は、我々大人が「あなたはそのままでいい、あなたらしくありなさい」という寛容な態度で子ども達に向き合うことはもちろん大切であるが、子ども達自身が自己の生き方や自己肯定感について主体的に考え、「自分が自分らしくあるとはこういうことだ」、「誇りを持って生きるとはこういうことだ」と、主体的に向き合っていかなければ、根本的な改善は図れない。

そこで本校道徳科では、「誇りをもって生きる」をテーマに、3時間の小単元的ユニットを構成した。それぞれの授業は、場面も登場人物も異なり、一見関連していないように感じられるが、社会の中で生きる自分【社会参画、公共の精神】、集団の中で生きる自分【遵法精神、公德心】、友達と共に生きる自分【友情、信頼】と、「他者との関わり」という共通した視点があり、その中で「誇りをもって生きる」とはどのような生き方かを考えさせる。年間35時間の中で、上記のような現代的諸課題や、各学校における道徳の重点項目において、複数時間の小単元的ユニットとしてカリキュラム開発を行うことは、生徒の道徳的学びを深める手立てとなると考える。それぞれ単一の授業として22の内容項目を扱うよりも、ユニットとしてそれぞれの価値内容を関連づけ連続的な指導をした方が、学習者の課題意識が明確になり、より深い次元での自分事としての学びにすることができると考えるからである。



【図2】ユニット「誇りを持って生きる」における生徒の思考のイメージ

(3) ユニットにおける学びの本質に迫る指導とその評価について

本校道徳科において、学びの本質とは、①道徳的諸価値についての理解を深め、自分自身の生活との関わりを考える、②他者と協働し、物事を広い視野から多面的・多角的に考える、③自己の生き方について考え、社会によりよく生きようと探究する、という三つの資質・能力を育成する過程であり、「道徳性をもって他者と協働し、社会によりよく生きようと探究する」ことと捉えている。

①学びの本質に迫る指導について

指導の視点	
視点1	価値の明確化による道徳的諸価値の理解
視点2	物事を多面的・多角的に考えるための手立て
視点3	自己の考えを深めるための、表現・言語活動の工夫

②評価について

(ア)「学びの本質に迫るための評価」～一単位時間当たりのパフォーマンスの評価～

評価の方法	
評価1	協働場面を生かした振り返り記述の見とり
評価2	学ぶ姿勢、学びの深まりに関わる自己評価の見とり

(イ)「学びの本質に迫ったかを見とる評価」～継続的な学びのポートフォリオの評価～

評価の方法	
評価3	中・長期的な学びの深化の見とり

3 ユニットの指導計画および評価計画

(1) 育成を目指す資質・能力

- ①「誇りをもって生きる」というテーマのもと、【社会参画、公共の精神】、【遵法精神、公德心】、【友情、信頼】等の道徳的諸価値についての理解を、自分自身との関わりの中で深める。
- ②他者と協働し「誇りをもって生きる」というテーマについて様々な視野から多面的・多角的に考える。
- ③「誇りをもって生きる」ことに良さを見出し、社会によりよく生きようと探究する。

(2) 指導目標

- ①様々な道徳的諸価値が混在するテーマだからこそ、一単位時間当たりの生徒の価値の明確化を図り、各時間の価値理解の深化を促す。
- ②各時間の資料提示の工夫、他者との協働場面の設定、視野を広げる問い返しなどを効果的に行い、生徒の多面的・多角的な思考を促す。
- ③自己のこれまでの生き方、これからの生き方について考えさせ、社会によりよく生きようと探究する態度を促す。

(3) 評価の視点 (○学びの本質に迫るための評価, ●学びの本質に迫ったかを見とる評価)

	I. 道徳的諸価値についての理解を深める	II. 自分自身の生活との関わりを考える	III. 他者と協働し, 物事を広い視野から多面的・多角的に考える	IV. 自己の生き方について考え, 社会によりよく生きようと探究する
○ 迫るための評価	○ I 一単位時間当たりの学習において, 自己が見出した道徳的諸価値についての理解を深めている。	○ II 一単位時間当たりの学習において, 道徳的問題を自分事として捉え, 考えている。	○ III 一単位時間当たりの学習において, 道徳的問題を他者と協働し, 多面的・多角的に考えている。	○ IV 一単位時間当たりの学習において, 学んだことを自己のこれからの生活に生かそうとしている。
● 迫ったかを見とる評価		● II ユニットテーマ「誇りをもって生きる」ことと, 自分自身の生活との関わりを考えている。	● III ユニットテーマ「誇りをもって生きる」について, 他者と協働し, 広い視野から多面的・多角的に考えている。	● IV ユニットテーマ「誇りをもって生きる」ことを, 自己の生き方に照らし合せ, 社会によりよく生きようと探究している。

(4) 指導と評価の計画

時	「資料」【内容項目】	・学習内容 ◆指導の留意点	評価の視点
事前		・『「誇りをもって生きる」とはどのような生き方か?』について記述する (10分)	
1	「その時, 自分は…」【社会参画, 公共の精神】 ・「救急隊として多くの市民を救うべきだ」と考える自分と, 「一人の人間として家族のもとへ向かいたい」という思いの葛藤から, 価値の理解を深める。 ◆【家族愛, 家庭生活の充実】に関わる発言も認めるが, 必ず【社会参画, 公共の精神】について触れさせる。 ◆「どちらの選択が正しいか」を問うのではなく, 行動の根拠を述べさせる中で, 価値の明確化を図る。		○ I 自己が見出した道徳的諸価値についての理解を深めている。(評価1) ○ II 道徳的問題を自分事として捉え, 考えている。(評価1・2) ○ III 他者と協働し, 多面的・多角的に考えている。(評価1・2) ○ IV 学んだことを今後の生活に生かそうとしている。(評価1・2)
2	「集団の中の義務と権利」【遵法精神, 公德心】 ・選挙で決まった事を, 個人の意向で覆すことは許されるのか, 「集団の中の義務」と「個人の権利」について考える。 ◆【自主, 自律, 自由と責任】に関わる発言も認めるが, 必ず【遵法精神, 公德心】について触れさせる。 ◆学級選挙ではなく, 社会に出たらどうか, 多面的に考えさせる。自分が集団の一員だったら, 選挙で選ばれた本人だったら, 多角的に考えさせる。		○ I 自己が見出した道徳的諸価値についての理解を深めている。(評価1) ○ II 道徳的問題を自分事として捉え, 考えている。(評価1・2) ○ III 他者と協働し, 多面的・多角的に考えている。(評価1・2) ○ IV 学んだことを今後の生活に生かそうとしている。(評価1・2)
3 本時	「親友救済作戦!」【友情, 信頼】 ・主人公の「親友を助けたい」という一方的な思いの至らなさに気づくと共に, 「親友」とは, 「友達の“為”」とは, という本質的な問いについて考える。 ◆私とゆうた双方の立場を考えたり, 生徒の経験談を語らせたりして, 多面的・多角的に考えさせる。 ◆【友情, 信頼】とは, 一方通行なものや, 上下関係のあるものではなく, 相互に信頼し合い, 対等でなければならないことに気づかせる。 ◆「友達の“為”」とは, 自己満足でも友達の言いなりでもなく, 生き方の幅を広げることであると気づかせる。		○ I 自己が見出した道徳的諸価値についての理解を深めている。(評価1) ○ II 道徳的問題を自分事として捉え, 考えている。(評価1・2) ○ III 他者と協働し, 多面的・多角的に考えている。(評価1・2) ○ IV 学んだことを今後の生活に生かそうとしている。(評価1・2)
事後		・『「誇りをもって生きる」とはどのような生き方か?』について記述する (10分) ・『ユニットの中で新たに発見した視点や, 更に深まった視点』について記述する (5分)。	● II テーマと, 自分自身の生活との関わりを考えている。(評価3) ● III テーマについて, 他者と協働し, 広い視野から多面的・多角的に考えている。(評価3) ● IV テーマを自己の生き方に照らし合せ, 社会によりよく生きようと探究している。(評価3)

4 資料について

(1) 資料名 「親友救済作戦！」(自作資料)

(2) 資料のあらすじ

中学校への進学に伴い、主人公である私は、小学校からの親友であるゆうたと別々の学級になってしまう。物静かなゆうたが新たな学級で人間関係を築いていくことができるか危惧していた私であったが、心配は的中、ゆうたは学級で孤立していく。時間が経つにつれ、新たな友人が増え始める私と対照的に、周りから孤立していくゆうたを不敏に思った私は、救いの手を差し伸べるべく「親友救済作戦」を執行。愛嬌のあるあだ名をつけたり、友達の輪にゆうたを引き込んだり、彼の交友関係を広げる努力を行った。私の働きの甲斐あって、ゆうたは学級での立ち位置(キャラ)を確立していったように見えた。しかし、ゆうたは学校を休むようになる。ゆうたの担任から、欠席の原因は私の考えた「親友救済作戦」であり、「その作戦には大事なものが欠けている」と指摘される。親友を救おうとした私が、親友を苦しめていたという結末から、「友情とは何か」、「親友とは何か」を考えさせる資料である。

4 本時の構想

(1) ねらい

「親友とはどのような関係か」という本質的な問いについて考える活動を通して、心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合い、人間関係を深めていこうとする態度を育てる。

(2) 本時の指導の構想

本資料の主人公「私」は、授業者の中学生時代の姿である。進学に伴う環境の変化が人間関係に及ぼす影響は大きい。新たな友人ができるというメリットもあれば、これまでの友人と疎遠になる、新たな環境に馴染めないといったデメリットもある。小学校から大の仲良しであった私とゆうたも、そんな渦中の中学一年生である。「友達とは何か」、「親友とは何か」、二人の葛藤と苦悩の日々を、「あるある…」と共感させながら考えさせたい。

導入では、生徒自身が4月に入学してきた時の不安や期待、クラス替えの時の心境などを想起させ、仲の良い友達と離れてしまった「私」の思いや、物静かな友人を心配する心境に共感させながら、【進級】の場面を読む。続いて、「皆が私だったらどんな行動をするか？」と問い、親友ゆうたを救うために、この後どのような行動に出るか考えさせる。中には、「特に何もしない」という意見も出るであろうが、「学級で孤立した親友を放っておける？」と揺さぶりをかけながら、「ゆうたの為に〇〇をする」といった発言を引き出し、【親友救済作戦！】の場面に転換していく。

前段で私の思いに共感させることで、「親友救済作戦」についても多くの生徒が、私の行動に共感し称賛するであろう。ここでも、あくまでも私目線で話を進めていきたい。生徒の中には「ゆうたは本当にこうなりたかったのかな？」など、ゆうた目線で「親友救済作戦」の欠点をついてくる生徒もいると考えられる。展開につながる大切な視点となるので、「この作戦によって、ゆうたは学級でどんな存在になっていったらだろうか？」と、この作戦による長期的な結果について考えさせるきっかけにして、【欠席】に繋げる。仮に、ゆうた目線の意見が出てこない場合も、【欠席】を示した後からでも十分に「親友救済作戦」の欠点について考えることができるので、この段階での多面的・多角的な視点にはこだわらない。

展開では、親友の為に思って取り組んだ「親友救済作戦」が失敗するという意外性のある結果から、この作戦には何が足りなかったのか、先生の言う「大事なもの」とは何かを、個人・グループ・学級で深めていく。一見、上手くいっていたように見えた作戦だが、振り返ってみると「ゆうたの本当の気持ちを聞くこと」が欠けている、「自分の価値観で、一方的に行動してしまったこと」が良くなかったのではないかと、という考えに至らせたい。

終末では更に、友達のことを思って行動をする時の「友達の為」の“為”とは何かについて考えさせたい。今回の私のように、「ゆうたに、自分以外の交友関係を築いてほしい(将来の事を考えると築くべきだ)」という一種のパターナリズム的な考えもあれば、「ゆうたの考えを大切にして、寄り添いつつ進む道を決定していこう」というマターナリズム的な考えもある。真の友情とは何か、物語に頻繁に出てくる「親友」という言葉と共に、多面的・多角的に考えさせたい。

「親友救済作戦！」

Title1【進級】

私が、もしも誰かに「親友は誰ですか？」と聞かれたら、間違いなく「ゆうたです！」と答えるだろう。社交的でよくリーダーを任される私と、無口で物静かなゆうた、タイプが異なる私達だが、家も近所で、小学生の頃から同じ運動クラブに所属していたこともあり、常に一緒にいた。

4月、中学生になった私達は、進級に伴う学級編成で、別々のクラスになってしまった。ゆうたは昔から友人は少なかったので、「新しい学級の中でうまく人間関係を築いていけるだろうか…」と心配していた。ゆうたのことが気になる私は、よく彼の学級の様子を見に行った。心配は的中、彼は自分の机で読書をするばかりで、友達はいないようだ。小学校の頃はまだ、クラスに一人、二人、話をする人がいたのだが…。周りも、そんなゆうたに近寄り難さを感じているように見えた。学校生活が進むにつれ、新しい友達が増えていく私とは対照的に、ゆうたは学級で完全に孤立していった。「親友を放ってはおけない、何とかしなければ…。」そんな思いが頭の中を駆け巡った。

Title2【親友救済作戦】

5月、私は何とかゆうたの友達を増やそうと一肌脱ぐ決心をした。その名も「親友救済作戦！」。彼の長所、特徴は何だろうか。彼をPRする方法を考えた。そうだ、彼の一番の特徴と言えば、高身長だ。中学1年生でありながら170cmはある、これを活かさない手はない。ひょろっとした体形から、「ノッポさん」というあだ名をつけた。「ノッポさん」とは、NHKの教育番組で大人気を誇った俳優の愛称でもあり、親しみやすさは抜群だ。登下校も二人ではなく、通学路が同じ友達に声をかけて六、七人で行うことにした。グループの中では、できるだけゆうたを話題の中心にしようと努力した。すると、ゆうたの真面目な反応が友達にうけ、「ノッポさん」はグループの愛されキャラとなったのだ。これまで、大勢の仲間とわいわいすることなんてなかったゆうたも、毎日が楽しそうであった。私はゆうたの笑顔を励みに、作戦を遂行していった。

6月、ゆうたと同じ学級の友達から「今日の昼食中、ノッポさんが面白かったぞ!」、「ノッポさんのキャラは女子にも大うけだよ!」といった喜ばしい情報が入ってきた。ノッポさんの人気、やっと彼の学級にも浸透したらしい。孤立していた親友が、学級での居場所を作ることができた。親友救済作戦は大成功に終わったのだ。

Title3【欠席】

7月、しばらくするとゆうたが学校に来ない日が続いた。心配になって彼の家に電話をかけてみても、本人とは話せない。お母さんの「最近体調が優れなくてね…」という暗い声に、私は何か嫌な予感がした。最近では学級でも上手くいっていると思っていたが…。

翌日、直接ゆうたの学級担任に掛け合った。担任は「ゆうたは今、人間関係で苦しんでいるんだ。ここ最近、君自身何か感じたことはなかったか?」と言った。私が「いいえ、最近楽しそうにしていたので…。学級でも上手くいっていましたよね?」と尋ねると、「ゆうたは、君のことを怖いと言っているんだ。君の周りの友人も、学級の友達のことね。」と話した。思いもよらない返答に、私は面喰った。そしてすぐに、自分がどれだけ彼を心配していたか、「親友救済作戦」についても話した。しかし先生は「気持ちは分からなくもないが、それが彼を苦しめているんじゃないか。」続けて「その作戦には、大事なものが欠けている。」と言った。

「ゆうたの為を思って行動したのに…。」私は気持ちの整理がつかないまま、職員室を後にした。



1年 組 番 氏名

◎本時のテーマ	
親友救済作戦！	
【自分の考え/そのように考えた理由】	
	
【話し合いのメモ, 「なるほどな」と思った友達の考え】	
	
【自分の考え/そのように考えた理由】	
	
○本時の振り返り	

①今日の授業を“自分事”として考えることができましたか ②「なるほど」と思うような意見や新たな気づきがありましたか ③今後の自分の生活に生かせそうな学びがありましたか

自己評価 ① (5・4・3・2・1) ② (5・4・3・2・1) ③ (5・4・3・2・1)